

**IBM Unica Marketing Platform**

**バージョン 8 リリース 6**

**2012 年 4 月 30 日**

**システム・テーブル**

**IBM**

注

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、29ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Unica Marketing Platform (製品番号 xxxx-xxx) バージョン 8 リリース 6 モディフィケーション 0、および新しいエディションで明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Unica Marketing Platform  
Version 8 Release 6  
April 30, 2012  
System Tables

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2012.6

© Copyright IBM Corporation 1999, 2012.

---

## 目次

第 1 章 本書について . . . . .	1	IBM Unica 技術サポートへの連絡 . . . . .	27
IBM Unica 技術サポートへの連絡 . . . . .	1	特記事項 . . . . .	29
第 2 章 IBM Unica Marketing Platform		商標 . . . . .	31
システム・テーブル・リファレンス . . . . .	3		



---

## 第 1 章 本書について

このセクションでは、本書の目的と対象に関する概要、および使用条件について説明します。

### 本書の目的

本書は、統合のために IBM® Unica Marketing Platform データ・モデルを理解できるようにすることを目的としています。

**重要:** (ユーザー・インターフェースを使用しないで) Marketing Platform システム・テーブルを直接変更すべきではありません。Marketing Platform システム・テーブルを直接変更すると、Marketing Platform の機能に問題が生じる可能性があり、発生した問題を IBM Unica 技術サポートが解決することがより困難になる場合があります。

### 使用条件

本書に含まれる情報は、IBM Unica に属する機密および専有の情報であるため、現在有効な機密保持契約に従う場合のみ使用できます。

この情報を共有する場合は、社内の関係者のみに限る必要があります。本書に含まれるデータが公開されるのを保護する、現在有効な IBM Unica に関する機密保持契約がお客様の会社にあるかどうかを確認できない場合、この資料を使用し続けずに、IBM Unica にすぐに返却してください。

### 将来のシステム・テーブルの変更

IBM Unica は、システム・テーブル・スキーマおよび Marketing Platform 製品に関するこの資料の内容をいつでも変更する権利を保有します。Marketing Platform システム・テーブルを使用するカスタム統合の開発を選択する場合、Marketing Platform システム・テーブルの今後のリリースで使用できるように、これらのコンポーネントを確認し、必要に応じて変更する必要があります。

Marketing Platform システム・テーブルを使用する、カスタム開発された拡張機能またはサード・パーティーの拡張機能については、後方互換性および自動移行は保証されません。IBM Unica は、この製品の一部として出荷された Marketing Platform アプリケーションまたは標準ツールによる標準的なアプリケーションの使用以外には、いかなる Marketing Platform システム・テーブルの使用もサポートしません。

---

## IBM Unica 技術サポートへの連絡

ドキュメンテーションを参照しても解決できない問題があるなら、指定されているサポート窓口を通じて IBM Unica 技術サポートに電話することができます。このセクションの情報を使用するなら、首尾よく効率的に問題を解決することができます。

サポート窓口が指定されていない場合は、IBM Unica 管理者にお問い合わせください。

## 収集する必要がある情報

IBM Unica 技術サポートに連絡する前に、以下の情報を収集しておいてください。

- 問題の性質の要旨。
- 問題発生時に表示されるエラー・メッセージの詳細な記録。
- 問題を再現するための詳しい手順。
- 関連するログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデータ・ファイル。
- 『システム情報』の説明に従って入手した製品およびシステム環境に関する情報。

## システム情報

IBM Unica 技術サポートに電話すると、実際の環境に関する情報について尋ねられることがあります。

問題が発生してもログインは可能である場合、情報の大部分は「バージョン情報」ページで入手できます。そのページには、インストールされている IBM Unica のアプリケーションに関する情報が表示されます。

「バージョン情報」ページは、「ヘルプ」>「バージョン情報」を選択することにより表示できます。「バージョン情報」ページを表示できない場合、各アプリケーションのインストール・ディレクトリーの下にある `version.txt` ファイルを表示することにより、その IBM Unica アプリケーションのバージョン番号を入手できます。

## IBM Unica 技術サポートの連絡先情報

IBM Unica 技術サポートとの連絡を取る方法については、IBM Unica 製品技術サポートの Web サイト (<http://www.unica.com/about/product-technical-support.htm>) を参照してください。

## 第 2 章 IBM Unica Marketing Platform システム・テーブル・リファレンス

このセクションでは、各 IBM Unica Marketing Platform システム・テーブルの詳細を提供します。

表に示すデータ型は、システム・テーブルに使用されるデータベースに応じて、ご使用の Marketing Platform インストール済み環境で異なる可能性のある汎用タイプです。

### USM\_USER

ユーザーに関する情報を保管します。

フィールド	タイプ	長さ	Null (値なし)	説明
ID	INT64		false	ユーザーの内部数値 ID。
NAME	VARCHAR2	256	false	ユーザーのログイン名。
PASSWORD	VARCHAR2	100	true	ユーザーのパスワード・ハッシュ。
FIRST_NAME	VARCHAR2	128	true	ユーザーの名 (ファーストネーム)。
LAST_NAME	VARCHAR2	128	true	ユーザーの姓。
TITLE	VARCHAR2	128	true	ユーザーの役職。
DEPARTMENT	VARCHAR2	128	true	ユーザーが所属する部門。
ORGANIZATION	VARCHAR2	128	true	ユーザーが所属する組織。
COUNTRY	VARCHAR2	128	true	ユーザーの国籍。
EMAIL	VARCHAR2	128	true	ユーザーの電子メール・アドレス。
ADDRESS1	VARCHAR2	128	true	ユーザーの住所の 1 行目。
ADDRESS2	VARCHAR2	128	true	ユーザーの住所の 2 行目。
PHONE1	VARCHAR2	20	true	ユーザーの電話番号。
PHONE2	VARCHAR2	20	true	ユーザーの 2 つ目の電話番号。
PHONE3	VARCHAR2	20	true	ユーザーの 3 つ目の電話番号。
STATUS	INT32		true	ユーザー・アカウントの状態を区別するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 1: アクティブ</li><li>• 2: 無効</li><li>• 3: LDAP から削除済み</li></ul>

フィールド	タイプ	長さ	Null (値なし)	説明
ALT_LOGIN	VARCHAR2	256	true	ローカル・システム・リソースへのアクセスを制御するために Campaign によって使用される UNIX の代替ログイン。このログインは、ローカル UNIX マシンの有効なユーザー・アカウントに一致している必要があります。
PW_EXPIRATION_DATE	DATETIME		true	ユーザーのパスワードの有効期限日。これは、「有効期間 (Validity) (日単位) 構成プロパティと連動して機能します。
PW_EXPIRATION_POLICY	INT32		true	未使用のフィールドです。
PW_FAILED_TRIES	INT32		true	連続して失敗したログイン試行の回数を記録します。これは、「ログイン失敗時に許容される最大試行回数 (Maximum failed login attempts allowed)」プロパティと連動して機能します。
PW_RESET	INT32		true	ユーザーに新規パスワードの選択を求めるために使用するフィールド。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0: リセットは必要なし</li> <li>• 1: リセットが必要</li> </ul>
PARTITION_ID	INT32		true	ユーザーが所属するパーティション。
SYSTEM_DEFINED	INT32		true	ユーザーのタイプを区別するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0: ユーザー定義のユーザー (IBM Unica Marketing ユーザーによって作成されます)</li> <li>• 1: システム定義のユーザー (Marketing Platform を最初にインストールしたときから存在します)</li> <li>• 2: 同期されたユーザー (外部システムからインポートされます)</li> </ul>

フィールド	タイプ	長さ	Null (値なし)	説明
CREATE_BY	INT64		false	このユーザー・アカウントを作成したユーザーの数値 ID。
CREATE_DATE	DATETIME		false	ユーザー・アカウントが作成された日付。
UPDATE_DATE	DATETIME		true	ユーザーが最後に更新された日付。

## USM\_ROLE

役割ベースのアクセス制御 (RBAC) に使用される役割を定義します。すべての IBM Unica Marketing アプリケーションが RBAC を使用するわけではないことに注意してください。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
ID	INT64		false	役割の内部数値 ID。
NAME	VARCHAR	64	false	役割の名前。
DESCRIPTION	VARCHAR2	512	true	役割の説明。
DISPLAY_NAME	VARCHAR2	256	true	IBM Unica Marketing ユーザー・インターフェースでの役割の表示名。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
TYPE	INT32		true	<p>役割のタイプを区別するフラグ。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0: ユーザー定義の役割</li> <li>• 1: オブジェクト所有者</li> <li>• 2: フォルダ所有者</li> <li>• 100: パーティション</li> <li>• 101: グローバル・ポリシー</li> <li>• 102: ポリシー</li> <li>• 103: グループ</li> </ul> <p>オブジェクト所有者およびフォルダ所有者は両方とも、システム定義の役割です。役割がシステム定義であっても、管理者は各役割に関連付ける権限を指定できることに注意してください。これらの役割は、多くの IBM Unica Marketing アプリケーションによって使用されるデータを編成するフォルダ/オブジェクトのパターンをサポートします。</p>

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
APPLICATION	INT32		true	役割を定義できるコンテナのタイプを区別するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 100: Manager (Marketing Platform)</li> <li>• 101: Campaign</li> <li>• 102: Plan (Marketing Operations)</li> <li>• 103: eMessage</li> <li>• 104: Optimize</li> <li>• 105: Interact</li> <li>• 106: Model (PredictiveInsight)</li> <li>• 107: Leads</li> <li>• 108: Reports</li> <li>• 110: Collaborate (Distributed Marketing)</li> <li>• 111: Insight (CustomerInsight)</li> <li>• 112: NetInsight</li> </ul>
PARTITION_ID	INT32		true	役割が所属するパーティション。
STATE	INT32		false	状態。
NODE_PATH	VARCHAR2	4000	true	役割階層 (上位) のノードへのパス。
SYSTEM_DEFINED	INT32		true	役割のタイプを区別するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0: ユーザー定義の役割 (IBM Unica Marketing ユーザーによって作成されます)</li> <li>• 1: システム定義の役割 (Marketing Platform を最初にインストールしたときから存在します)</li> </ul>
CREATE_BY	INT64		false	役割を作成したユーザーの数値 ID。
CREATE_DATE	DATETIME		false	役割が作成された日付。
UPDATE_DATE	DATETIME		true	役割が最後に更新された日付。

## USM\_ROLE\_ROLE\_MAP

役割階層をサポートします。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
ROLE_ID	INT64		false	役割の ID。
PARENT_ROLE_ID	INT64		false	親役割の ID。
CREATE_DATE	DATETIME		false	役割階層が作成された日付。
UPDATE_DATE	DATETIME		true	役割階層が更新された日付。

## USM\_USER\_ROLE\_MAP

ユーザーを役割に割り当てます。役割における暗黙の権限は、Marketing Platform に固有のものではなく、細分化されたセキュリティーを使用する IBM Unica Marketing アプリケーションすべてに適用されます。Marketing Platform は割り当てられた権限を保管しますが、権限を施行する各アプリケーションに従います。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
USER_ID	INT64		false	役割を割り当てられたユーザーの ID。
ROLE_ID	INT64		false	ユーザーに割り当てられた役割の ID。
CREATE_DATE	DATETIME		false	割り当てが作成された日付。
UPDATE_DATE	DATETIME		true	割り当てが更新された日付。

## USM\_PERMISSION

権限を定義します。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
ID	INT64		false	権限の内部数値 ID。
NAME	VARCHAR2	322	false	権限の名前。
DESCRIPTION	VARCHAR2	512	true	役割の説明。
DISPLAY_NAME	VARCHAR2	256	true	IBM Unica Marketing ユーザー・インターフェースでの権限の表示名。
TYPE	INT32		false	権限のタイプを区別するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>1: パーティション・レベルの権限</li><li>2: ポリシー・レベルの権限</li></ul>

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
APPLICATION	INT32		true	役割を定義できるコンテナのタイプを区別するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 100: Manager (Marketing Platform)</li> <li>• 101: Campaign</li> <li>• 102: Plan (Marketing Operations)</li> <li>• 103: eMessage</li> <li>• 104: Optimize</li> <li>• 105: Interact</li> <li>• 106: Model (PredictiveInsight)</li> <li>• 107: Leads</li> <li>• 108: Reports</li> <li>• 110: Collaborate (Distributed Marketing)</li> <li>• 111: Insight (CustomerInsight)</li> <li>• 112: NetInsight</li> </ul>
PARTITION_ID	INT32		true	この権限が所属するパーティション。主にレポート作成機能における動的権限によって使用されます。
CATEGORY	VARCHAR2	256	true	カテゴリー
PERMISSION_ORDER	INT32		true	権限の順序。
OBJECT_NAME	VARCHAR	100	true	オブジェクト名。
OPERATION_NAME	VARCHAR	256	true	操作名。
PERMISSION_MASK	INT32		true	権限マスク。
OBJECT_INSTANCE_CHECK	INT32		false	オブジェクト・インスタンスをチェックするかどうかを指定します。
VALID_MEMBER_ROLE_TYPES	INT32		true	この権限の有効なメンバー役割のタイプ。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
SYSTEM_DEFINED	INT32		true	権限のタイプを区別するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>0: ユーザー定義の役割 (IBM Unica Marketing ユーザーによって作成されます)</li> <li>1: システム定義の役割 (Marketing Platform を最初にインストールしたときから存在します)</li> </ul>
CREATE_BY	INT64		false	役割を作成したユーザーの数値 ID。
CREATE_DATE	DATETIME		true	役割が作成された日付。
UPDATE_DATE	DATETIME		true	役割が最後に更新された日付。

## USM\_ROLE\_PERMISSION\_MAP

権限を役割に割り当てます。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
ROLE_ID	INT64		false	権限を割り当てられた役割の ID。
PERMISSION_ID	INT64		false	役割に割り当てられた権限の ID。
PERMISSION_STATE	INT32		false	権限の状態。 <ul style="list-style-type: none"> <li>0: 拒否</li> <li>1: 許可</li> <li>2: 継承</li> </ul>
CREATE_DATE	DATETIME		false	割り当てが作成された日付。
UPDATE_DATE	DATETIME		true	割り当てが最後に更新された日付。

## USM\_CONFIGURATION

Marketing Platform の「構成」ページを使用して管理される構成プロパティを保管します。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
ID	INT64		false	構成要素の内部数値 ID。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
ELEMENT_TYPE	INT32		false	構成要素のタイプ。有効な値は次のとおりです。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. スイート</li> <li>2. アプリケーション</li> <li>3. カテゴリー</li> <li>4. セクション</li> <li>5. ストリング・プロパティ</li> <li>6. 数値プロパティ</li> <li>7. 時間プロパティ</li> <li>8. テキスト・プロパティ</li> <li>9. 複数値プロパティ</li> <li>10. チェック・ボックス・プロパティ</li> <li>11. ドロップダウン・プロパティ</li> <li>12. ラジオ・プロパティ</li> <li>13. ファイル・プロパティ</li> <li>14. URL プロパティ</li> <li>15. 整数プロパティ</li> </ol>
INTERNAL_NAME	VARCHAR2	64	false	構成要素の内部名。
PARENT_ID	INT64		true	構成要素の ID。この ID によって、構成プロパティの組織が階層で使用できるようになります。
CONFIGURATION_ORDER	INT32		true	親でのこの要素の位置。
HIDDEN	INT8		false	構成要素の表示可能性を制御するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0: False</li> <li>• 1: True</li> </ul>
READ_ONLY	INT8		false	構成要素を更新できるかどうかを制御するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0: False</li> <li>• 1: True</li> </ul>
REMOVABLE	INT8		false	構成要素を削除できるかどうかを制御するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0: False</li> <li>• 1: True</li> </ul>

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
ALLOW_BLANK	INT8		false	要素の値を空白にできるかどうかを制御するフラグ。 有効な値は次のとおりです。 • 0: False • 1: True
PREFERENCE	INT8		false	構成要素がユーザー設定を表現するかどうかを制御するフラグ。有効な値は次のとおりです。 • 0: False • 1: True
TEMPLATE	INT8		false	新規構成要素を作成するためのテンプレートとしてこの構成要素を使用するかどうかを制御するフラグ。有効な値は次のとおりです。 • 0: False • 1: True
DISPLAY_NAME_KEY	VARCHAR	64	true	国際化された名前を検索するために使用されるキー。
DISPLAY_NAME	VARCHAR2	256	true	国際化された名前を検出できない場合のデフォルト表示名。
DISPLAY_WIDTH	INT32		true	表示する最大文字数。
DESCRIPTION_KEY	VARCHAR	256	true	国際化された説明を検索するために使用されるキー。
DEFAULT_KEY	VARCHAR	64	true	ストリング・プロパティのローカライズ・デフォルト値を検索するために使用されるキー。
DEFAULT_VALUE	FLOAT		true	数値タイプのデフォルト値。
USAGE_NOTE	VARCHAR2	256	true	使用法に関する説明 (ローカライズまたは表示されません)。
VALIDATION_CLASS	VARCHAR	256	true	検証に使用されるオプションのカスタム・クラス。
OWNER	VARCHAR	64	true	構成要素の所有者。
UPDATE_DATE	DATETIME		true	構成が最後に更新された日付。
NS_THREAD	INT32		false	ネスト設定されたスレッド。
NS_LEFT	INT32		false	ネスト設定された左ポインタ。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
NS_RIGHT	INT32		false	ネスト設定された右ポインタ。
VERSION	INT32		true	ハイバネート・オプティミスティック・ロックに使用されるフィールド。

## USM\_CONFIGURATION\_VALUES

Marketing Platform の「構成」ページを使用して管理される構成プロパティの値を保管します。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
CONFIGURATION_ID	INT64		false	格納する構成の ID。
CONFIGURATION_ORDER	INT32		false	親でのこの値の順序。
ENVIRONMENT_ID	INT32		false	異なる環境に対して異なる値を指定できるようにする ID。
USER_ID	INT64		false	ユーザー設定の上書き (およびその設定を適用するユーザー) を識別します。
PREDEFINED	INT8		false	構成値のタイプを区別するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>0: ユーザー定義の値 (IBM Unica Marketing ユーザーによって作成されます)</li> <li>1: システム定義の値 (Marketing Platform を最初にインストールしたときから存在します)</li> </ul>
SELECTED	INT8		false	値が選択されているかどうかを区別するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>0: 未選択の選択項目</li> <li>1: 選択済み</li> </ul>
STRING_VALUE	VARCHAR2	1024	true	ストリング値プロパティ・タイプに適用可能なストリング値。
NUMERIC_VALUE	FLOAT		true	数値プロパティ・タイプに適用可能な数値。
DATE_VALUE	DATETIME		true	日付プロパティ・タイプに適用可能な日付値。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
VERSION	INT32		true	ハイバネート・オブティミスティック・ロックに使用されるフィールド。

## USM\_AUDIT

監査トレースを定義するために、将来使用します。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
ID	INT64		false	監査項目の内部数値 ID。
EVENT	VARCHAR	100	false	監査イベント。
DESCRIPTION	VARCHAR2	256	true	監査イベントの説明。
TYPE	INT32		true	監査イベントのタイプ。
HOST_NAME	VARCHAR2	256	true	アプリケーションのホスト・マシン名。
BROWSER	VARCHAR2	128	true	アプリケーションにアクセスするために使用されるブラウザ。
REQUEST	VARCHAR2	4000	true	システムに送信される要求。
USER_NAME	VARCHAR2	256	true	アクションを実行したユーザーのログイン名。
AUDIT_DATE	DATETIME		true	監査イベントが発生した日付。

## USM\_DB\_ACCESS

IBM Unica Marketing アプリケーションのユーザーがアクセス可能なデータ・ソース、および IBM Unica Marketing アプリケーションがアクセス可能なデータ・ソースへのシステム・レベルのアクセスを定義します (LDAP 接続情報など)。Marketing Platform は、独自のシステム・テーブルに関する接続情報を保管するために、このテーブルを使用しないことに注意してください。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
USER_ID	INT64		false	ユーザーの内部 ID。
PARTITION_ID	INT64		false	このデータ・ソースにアクセス可能なパーティション。
DATA_SOURCE	VARCHAR2	256	false	データ・ソースの名前
DB_LOGIN	VARCHAR2	256	true	データ・ソースにログインするために使用されるユーザー名。
DB_PASSWORD	VARCHAR	255	true	データ・ソースにログインするために使用される暗号化されたパスワード。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
CREATE_DATE	DATETIME		false	このデータ・ソース項目が定義された日付。
UPDATE_DATE	DATETIME		true	このデータ・ソース項目が最後に更新された日付。

## USM\_APPLICATION

Marketing Platform に登録された各 IBM Unica Marketing アプリケーションを識別します。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
APP_ID	INT32		false	Marketing Platform に登録された IBM Unica Marketing アプリケーションの内部数値 ID。
APP_NAME	VARCHAR	64	false	Marketing Platform に登録された IBM Unica Marketing アプリケーションのストリング ID。このテーブルの DISPLAY_NAME フィールドに表示名が指定されていない場合、この ID は Marketing Platform ユーザー・インターフェースでの表示名としても機能します。
APP_DESC	VARCHAR	256	true	Marketing Platform ユーザー・インターフェースに表示されるアプリケーションの説明。
APP_TOKEN	VARCHAR	100	true	IBM Unica Marketing アプリケーションのパブリック・ストリング ID。Marketing Platform API を使用してサービスを呼び出すときに、IBM Unica Marketing アプリケーションがそれ自体を識別するために使用されます。
DISPLAY_NAME	VARCHAR2	256	false	Marketing Platform ユーザー・インターフェースでの IBM Unica Marketing アプリケーションの表示名。表示名がここに指定されていない場合、その代わりに APP_NAME フィールドが使用されます。

## USM\_TOKEN

一時的なトークンの使用によるシングル・サインオンをサポートします。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
TOKEN_ID	VARCHAR	128	false	トークン値。
USER_ID	INT32		false	トークンを要求するユーザーの ID。
CREATE_DATE	DATETIME		false	トークンが作成された日付。
DEST_APP	INT32		false	ユーザーがナビゲートしているアプリケーション。

## USM\_PW\_HISTORY

過去のユーザー・パスワードを記録し、過去のパスワードの再使用を制限します。保管される過去のパスワードの数は、「パスワード履歴数 (Password history count)」プロパティの値に基づきます。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
USER_ID	INT32		false	このパスワードを最近使用したユーザーの ID。
SEQ_NUM	INT32		false	このパスワードの使用時期を、そのユーザーの他のパスワードと比較して表す数値。数値が大きいほど、最近使用されたパスワードを表します。
PASSWD	VARCHAR	255	true	暗号化されたパスワード。
ARCHIVE_DATE	DATETIME		false	そのパスワードがユーザーによって最後に選択された日時。

## USM\_DB\_RESOURCE\_BUNDLE

リソース・バンドルに関する情報を保管します。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
ID	INT64		false	リソース・バンドルの内部数値 ID。
NAME	VARCHAR	256	false	リソース・バンドルの名前。
LOCALE	VARCHAR	16	true	リソース・バンドルのロケール。
APPLICATION	INT32		true	リソース・バンドルのアプリケーション ID。
BUNDLE_PROPERTIES	CLOB		true	リソース・バンドルのプロパティ。

## USCH\_TASK

すべてのスケジュール・タスク（イベント・トリガーおよび時間ベース）に関するメタデータを追跡するテーブル。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
TASKID	INT64		false	スケジュール・タスクの内部数値 ID。
NAME	VARCHAR2	150	false	スケジュール・タスクに入力されたユーザーの名前。
DESCRIPTION	VARCHAR2	512	true	スケジュール・タスクに入力されたユーザーの説明。
GROUPID	VARCHAR	100	false	タスクが関連付けられたスロットル・グループの ID。
OBJECTTYPE	VARCHAR2	256	true	スケジュール・オブジェクトのタイプ。
OBJECTID	VARCHAR	256	true	クライアント・アプリケーションでのスケジュール・オブジェクトの ID。
OBJECTNAME	VARCHAR2	256	true	クライアント・アプリケーションでのスケジュール・オブジェクトの名前。
PRODUCTID	VARCHAR	100	true	スケジュール・オブジェクトが所属する製品の ID。
PAYLOAD	VARCHAR2	4000	true	スケジュール・プロセスを実行するために、クライアント・アプリケーションが必要とするランタイム・パラメーター。これは、タスク・レベルで保管されます。
SCHEDULENAME	VARCHAR2	256	true	繰り返しパターンの名前。
SCHEDULE	VARCHAR	100	true	繰り返しパターンのクローン式ストリング。
SCHEDULESTART	DATETIME		true	繰り返しパターンが開始される日時。
SCHEDULEEND	DATETIME		true	繰り返しパターンが停止する日時。
LISTENINGTRIGGER	VARCHAR2	100	true	タスクを開始するために、タスクが listen するトリガー・ストリング（イベント・ベースのタスクによってのみ使用されます）。
CREATEDBY	INT64		false	タスクを作成したユーザーの ID。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
PARTITIONID	INT64		false	タスクを作成したユーザーのパーティション ID。
CREATEDTIME	DATETIME		false	タスクが作成された日時。
MODIFIEDBY	INT64		false	タスクを最後に変更したユーザーの ID。
MODIFIEDTIME	DATETIME		false	タスクが最後に変更された日時。
STATUS	VARCHAR	100	false	スケジュールの内部ステータス。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• スケジュール済み</li> <li>• トリガー済み</li> </ul>
TIMEZONE	NVARCHAR		false	スケジュール・タスクのタイム・ゾーン ID。
SOURCE			false	タスクがプラットフォームで作成されたか、または API を使用して作成されたかを示します。

## USCH\_TASK\_DEPENDENCY

実行依存関係機能に使用される依存関係を確立します。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
TASKID	BIGINT		false	別のタスクとの依存関係を持つタスクの ID。
DEPENDS_ON_TASK_ID	BIGINT		false	他のタスクが依存するタスクの ID。

## USCH\_TRIGGER

SUCCEEDED イベントまたは FAILED イベントに関連付けられたトリガーをサポートします。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
TASKID	INT64		false	トリガーが関連付けられたタスクの ID。
EVENT	VARCHAR	100	false	トリガーのイベント・タイプ (SUCCEEDED または FAILED)。
TRIGGERSTRING	VARCHAR2	100	true	待ちタスクをトリガーするために使用される発信トリガー・ストリング。

## USCH\_RUN

実際のスケジューラーの実行（現在と完了の両方）に関する情報を追跡します。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
RUNID	INT64		false	実行の内部 ID。
TASKID	INT64		false	実行が属するタスクの ID。
STARTDATE	DATETIME		false	実行が開始された日時。
LASTUPDATE	DATETIME		true	スケジュール・オブジェクトが属する製品から最後の実行ステータスを受信した日時。
TASKSTATE	VARCHAR	100	false	クライアント・アプリケーションから受信したステータスに基づき、以下のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>キューに入れられている</li> <li>実行中</li> <li>完了</li> <li>不明</li> <li>取り消し済み (CANCELED)</li> </ul>
STATUS	VARCHAR2	100	true	タスクによって開始されたプロセスの、スケジュール・オブジェクトが属する製品によってレポートされるステータス。製品は、少なくとも SUCCEEDED または FAILED をレポートします。通知目的のためだけに、追加のステータスをレポートする場合があります。
STATUSDETAIL	VARCHAR2	4000	true	実行に関する追加の詳細。スケジュール・オブジェクトが属する製品によってレポートされます。
PAYLOAD	NVARCHAR	4000	true	スケジュール・プロセスを実行するために、クライアント・アプリケーションが必要とするランタイム・パラメーター。これは、実行レベルで保管されます。

## USM\_ID\_TABLE

オブジェクト・タイプのクラスに関するユニーク ID の割り振りをサポートします。例えば、新規ユーザーを作成するときに、このテーブルの内容に基づいてユニークな内部 ID が生成されます。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
TABLE_NAME	VARCHAR	32	false	ユニーク ID が必要なテーブルの論理名。
TABLE_KEY	VARCHAR	32	false	固有値が必要なテーブルのキー・フィールドの論理名。この名前によって、複数のユニーク・キー・セットを 1 つのテーブルに定義できます。
MAX_ID	INT32		false	最後に割り振られた固有値。

## DF\_CONFIG

データ・フィルター用の複数あるテーブルの 1 つ。データ・フィルター構成を定義します。各データ・フィルター構成によって、共通のアクセス基準を共有する一連のオブジェクトの有効範囲が設定されます。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
CONFIG_ID	INT64		false	構成の内部数値 ID。
CONFIG_NAME	VARCHAR	64	false	構成の名前。

## DF\_FIELDCONSTRAINT

データ・フィルター用の複数あるテーブルの 1 つ。すべてのフィルターの単一フィールドの述部を定義します。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
FILTER_ID	INT64		false	フィールド制約が適用されるフィルターを識別します。
LOGICAL_FIELD_ID	INT64		false	フィルター基準が適用されるフィールド。
EXPRESSION	VARCHAR	64	false	フィールドに適用されるフィルター基準。

## DF\_FILTER

データ・フィルター用の複数あるテーブルの 1 つ。ユーザーおよびグループを割り当てることができる一連の基準を定義します。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
FILTER_ID	INT64		false	フィルターの数値 ID。
CONFIG_ID	INT64		false	フィルターが関連付けられるデータ・フィルター構成。データ・フィルター構成は、DF_CONFIG テーブルに定義されます。
CONSTRAINT_HASH	INT32		false	フィルターを素早く検索するために使用するフィルターのハッシュ・コード化表現。

## DF\_LOGICAL\_FIELD

データ・フィルター用の複数あるテーブルの 1 つ。データ・フィルターを作成するために使用される論理フィールドを定義します。このテーブルは、これらの論理フィールドを実際のテーブルの物理フィールドにマップします。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
LOGICAL_FIELD_ID	INT64		false	論理フィールドの数値 ID。
LOGICAL_NAME	VARCHAR	64	false	論理フィールドの名前。
TYPE	VARCHAR	64	false	論理フィールドのタイプ。 有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• java.lang.String</li> <li>• java.lang.Long</li> <li>• java.lang.Double</li> <li>• java.lang.Boolean</li> <li>• java.util.Date</li> </ul>

## DF\_TABLE

データ・フィルター用の複数あるテーブルの 1 つ。DF\_CONFIG テーブルで定義されたとおりにデータ・フィルター構成との関連によって保護された物理テーブルを識別します。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
TABLE_ID	INT64		false	物理テーブルの数値 ID。
TABLE_NAME	VARCHAR	64	false	データベース・テーブルの実際の名前。

## DF\_TABLE\_FIELD

データ・フィルター用の複数あるテーブルの 1 つ。実際のテーブルのフィールドに対応する論理フィールドにマップします。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
TABLE_ID	INT64		false	表 ID。
LOGICAL_FIELD_ID	INT64		false	実際のテーブル・フィールドに対応する論理フィールド。
PHYSICAL_NAME	VARCHAR	64	false	実際のテーブル・フィールドの名前。

## DF\_AUDIENCE

データ・フィルター用の複数あるテーブルの 1 つ。Campaign によって使用される意味での対象を定義します。対象は、1 つのテーブルでデータの複数の論理セット（つまり、非正規化されたデータ）をサポートするメカニズムです。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
AUDIENCE_ID	INT64		false	対象の数値 ID。
AUDIENCE_NAME	VARCHAR	64	false	対象の名前。

## DF\_AUDIENCE\_FIELD

データ・フィルター用の複数あるテーブルの 1 つ。テーブルに含まれる対象を識別するテーブルのフィールドを識別します。現在、この概念はデータ・フィルターによって使用されませんが、Campaign カタログとの整合性のために追加されました。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
AUDIENCE_ID	INT64		false	区別フィールドが識別される対象。
LOGICAL_FIELD_ID	INT64		false	この対象に属するレコードを識別する論理フィールドの 1 つ。
FIELD_ORDER	INT32		false	この対象に属するレコードを識別するために使用されるフィールドのセットを順序付けします。これは、Campaign カタログとの整合性のために存在します。

## DF\_AUDIENCE\_TABLE

データ・フィルター用の複数あるテーブルの 1 つ。一連のデータ・フィルターを特定の対象テーブルのペアに関連付けます。一連のデータ・フィルターは、DF\_CONFIG テーブルで定義されたとおりにデータ・フィルター構成によって識別されることに注意してください。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
AUDIENCE_ID	INT64		false	データ・フィルターのセットに関連付けられる対象。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
TABLE_ID	INT64		false	データ・フィルターのセットに関連付けられるテーブル。
CONFIG_ID	INT64		false	対象とテーブルのペアに関連付けられるデータ・フィルターのセット。

## OLS\_ASSIGNMENT

プリンシパル (つまり、ユーザーまたはグループ) を特定の名前空間にある特定のオブジェクト ID に関連付けます。このテーブルは、データ・フィルターよりも広い範囲に適用されます。データ・フィルターは、このテーブルを以下のように使用します。

- NAMESPACE\_ID は、DF\_CONFIG テーブル (つまり、一連のデータ・フィルター) に定義されているとおりに、特定のデータ・フィルター構成に対応します。
- DATAOBJECT\_ID は、その構成を持つ特定のデータ・フィルターに対応します。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
NAMESPACE_ID	INT64		false	DATAOBJECT_ID フィールドが適用する連のオブジェクトを識別します。
DATAOBJECT_ID	INT64		false	割り当てが行われるオブジェクト。
PRINCIPAL_ID	INT64		false	オブジェクトに割り当てられるユーザーまたはグループ。
PRINCIPAL_TYPE	INT32		false	プリンシパルのタイプを区別するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1: ユーザー</li> <li>• 2: グループ</li> </ul>

## OLS\_DATAOBJECT

ユーザーおよびグループを割り当てることができるオブジェクトを識別します。以下の点に注意してください。

- このテーブルではオブジェクトの ID のみを表し、オブジェクト状態は表しません。
- ID は、名前空間内でユニークである必要があります (つまり、主キーは NAMESPACE\_ID と DATAOBJECT\_ID で構成されます)。
- データ・フィルターのコンテキストでは、NAMESPACE\_ID は DF\_CONFIG テーブルの CONFIG\_ID に対応し、DATAOBJECT\_ID は DF\_FILTER テーブルの FILTER\_ID に対応します。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
DATAOBJECT_ID	INT64		false	オブジェクトのユニーク ID (名前空間内)。
NAMESPACE_ID	INT64		false	ユニーク ID を持つオブジェクト・セットでの有効範囲を表します。
DATAOBJECT_TAG	VARCHAR	128	false	アプリケーション固有の目的で、オブジェクト ID に関連付けることができるオプションのストリング。

## OLS\_NAMESPACE

名前空間は、一連のオブジェクトを表します。名前空間内のオブジェクト ID のセットは、ユニークである必要があります。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
NAMESPACE_ID	INT64		false	名前空間の数値 ID。
NAMESPACE_NAME	VARCHAR	64	false	名前空間の名前。

## UAR\_COMMON\_SQL

レポート作成スキーマを作成するために、レポート作成機能のスキーマ・ジェネレーターによって使用される SQL フラグメントを保管するテーブル。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
SQL_NAME	VARCHAR	99	false	SQL フラグメントの内部名。
PRODUCT_CODE	VARCHAR	256	false	SQL フラグメントの対象となる製品のコード。
SELECT_CLAUSE	VARCHAR	2048	true	SQL ステートメントの SELECT 部分。
FROM_CLAUSE	VARCHAR	4000	true	SQL ステートメントの FROM 部分。
GROUP_BY_CLAUSE	VARCHAR	1024	true	SQL ステートメントの GROUP BY 部分。

## USM\_ACTIVE\_PORTLET

ダッシュボードの事前定義されたポートレットに関する情報を保持します。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
APP_ID	INT32		false	事前定義されたポートレットが派生するアプリケーションの ID。
PORTLET_ID	VARCHAR	60	false	事前定義されたポートレットの内部数値 ID。

フィールド	タイプ	長さ	Null	説明
IS_ENABLED	INT32		false	事前定義されたポートレットをダッシュボードに組み込むことができるかどうかを示すフラグ。



---

## IBM Unica 技術サポートへの連絡

ドキュメンテーションを参照しても解決できない問題があるなら、指定されているサポート窓口を通じて IBM Unica 技術サポートに電話することができます。このセッションの情報を使用するなら、首尾よく効率的に問題を解決することができます。

サポート窓口が指定されていない場合は、IBM Unica 管理者にお問い合わせください。

### 収集する必要がある情報

IBM Unica 技術サポートに連絡する前に、以下の情報を収集しておいてください。

- 問題の性質の要旨。
- 問題発生時に表示されるエラー・メッセージの詳細な記録。
- 問題を再現するための詳しい手順。
- 関連するログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデータ・ファイル。
- 『システム情報』の説明に従って入手した製品およびシステム環境に関する情報。

### システム情報

IBM Unica 技術サポートに電話すると、実際の環境に関する情報について尋ねられることがあります。

問題が発生してもログインは可能である場合、情報の大部分は「バージョン情報」ページで入手できます。そのページには、インストールされている IBM Unica のアプリケーションに関する情報が表示されます。

「バージョン情報」ページは、「ヘルプ」>「バージョン情報」を選択することにより表示できます。「バージョン情報」ページを表示できない場合、各アプリケーションのインストール・ディレクトリーの下にある `version.txt` ファイルを表示することにより、その IBM Unica アプリケーションのバージョン番号を入手できます。

### IBM Unica 技術サポートの連絡先情報

IBM Unica 技術サポートとの連絡を取る方法については、IBM Unica 製品技術サポートの Web サイト (<http://www.unica.com/about/product-technical-support.htm>) を参照してください。



---

## 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510  
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号  
日本アイ・ビー・エム株式会社  
法務・知的財産  
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation  
170 Tracer Lane  
Waltham, MA 02451  
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

できます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

---

## 商標

IBM、IBM ロゴ、および [ibm.com](http://ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、『[www.ibm.com/legal/copytrade.shtml](http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml)』をご覧ください。







Printed in Japan